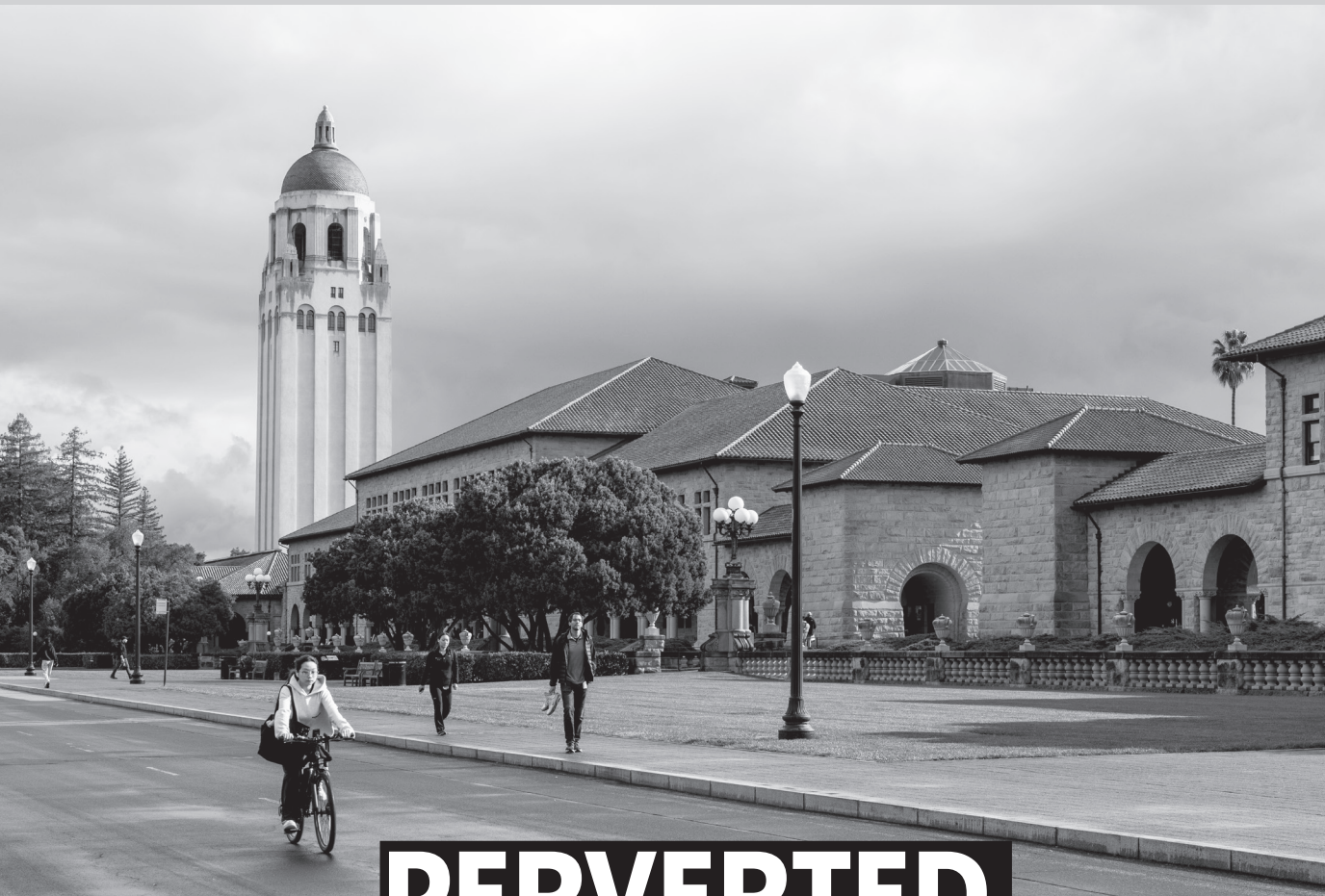




PERVERTED PEDAGOGY

一部の新生に100万ドルの資金供与!?
シリコンバレーが在学生を“青田買い”
学生記者が暴くスタンフォード大のゆがんだ実態

起業のアイデアすらない17歳の新生に100万ドルが手渡される、あるいは一部の特権的な学生だけが招かれる「世界を支配する方法」という秘密の授業が存在する——。権威あるジャーナリズム賞を最年少で受賞したセオ・ベイカー氏が暴き出したのは、才能を青田買いする大人たちと、目的のためならうそすら許容されるゆがんだ構造だった。知の殿堂が陥ったモラルハザードに迫る。



番組ホスト

ファリード・ザカリヤ

インド出身のジャーナリスト、国際問題評論家。イエール大学卒業後、ハーバード大学で博士号を取得。国際政治経済ジャーナル「フォーリン・アフェアーズ」編集長、ニュース週刊誌「ニューズウィーク」の国際版編集長を経て、2008年6月よりCNNで「Fareed Zakaria GPS」の番組ホストを務める。1964年、ムンバイ生まれ。



ゲスト

セオ・ベイカー

米国のジャーナリスト。コンピューター・サイエンスを志して名門スタンフォード大に入学。学内新聞の記者として活動を開始。1年生のときに、当時の学長による過去の学術論文の不正疑惑を独自に調査・スクープし、最終的に辞任に追い込んだ。これにより、米国の権威あるジャーナリズム賞「ジョージ・ポルク賞」(2022年 Special Award 部門)で史上最年少(当時18歳)での受賞。



Listening Quiz

61 シリコンバレーの巨額資金がもたらす名門校の「ファウスト的取引」



Fareed Zakaria Theo Baker, the son of respected journalists Peter Baker and Susan Glasser, enrolled in Stanford University passionate about coding and excited to be in Silicon Valley.* He ended up following in his parents' footsteps and joined the campus newspaper, the *Stanford Daily*. As a freshman, he broke a story about problems with the university president's academic research, which would ultimately lead that president to resign*. Theo became the youngest-ever recipient of the prestigious George Polk Award* for his reporting, and he has written a new memoir called *How to Rule the World: An Education in Power at Stanford University*. He joins me now.

Theo, welcome.



Theo Baker Thank you for having me.



Zakaria I want to focus on the picture you paint of Stanford, which really, in many ways, is the world's most important university now. Stanford is, of course, in the Bay Area, but it's also one of the great universities in the world, with great departments in every area. What did you find?



Baker Well, I describe in this book something of a Faustian bargain* that Stanford has made. This university, like no other institution of higher education, has had a meteoric ascent in the last few decades. It went from a regional university servicing the wealthy children of San Francisco and Californian

perverted:

《タイトル》邪道に陥った、ゆがんだ

pedagogy:

《タイトル》教育、教育方針

enroll in:

～に入学する

Silicon Valley:

シリコンバレー

end up doing:

結局～することになる

follow in someone's footsteps:

～の足跡をたどる、～の先例に倣う

freshman:

《主に米》高校生・大学1年生

break a story:

ニュースをいち早く報道する、速報する

university president:

大学総長

ultimately:

最終的に、結局

lead...to do:

～するよう…を至らしめる

resign:

辞任する、辞職する

recipient:

受賞者、受取人

prestigious:

名誉ある、誉れの高い

memoir:

回顧録、体験記

the Bay Area:

ベイエリア ▶カリフォルニア州サンフランシスコ周辺。

something of a:

～のようなもの、ちょっとした～

meteoric ascent:

日の出の勢い、急激に優勢になること

service:

～にサービスやものを提供する、～のニーズに応える

*お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

ファリード・ザカリア 2人の著名なジャーナリスト、ピーター・ベイカー氏とスーザン・グラッサー氏を両親に持つセオ・ベイカー氏は、コーディングに夢中で、シリコンバレーで学ぶことに胸を躍らせながらスタンフォード大学に入学しました。やがて、彼は両親と同じ道を歩むこととなり、大学新聞「スタンフォード・デイリー」に参加しました。1年生のときに、彼は(当時の)学長の(過去の)学術研究に関する問題をスクープし、最終的に学長は辞任に追い込まれました。その報道を認められ、セオ氏は権威あるジョージ・ポルク賞の史上最年少受賞者となり、この度、新著『世界を支配する方法 スタンフォード大学における権力の教育』という体験記をまとめました。それではお迎えしましょう。

セオさん、ようこそ。

セオ・ベイカー お呼びいただきありがとうございます。

ザカリア あなたが語るスタンフォード大学のありさまについて焦点を当てたいと思います。この大学は今まさにいろいろな意味で「世界で最も重要な大学」となっています。スタンフォード大学は、もちろん(IT産業の中心地である)ベイエリアの大学ですが、各分野において優秀な学部を持つ、世界有数の名門校でもあります。実際はどうでしたか。

ベイカー 私はこの本の中で、スタンフォード大学が結んでいる、ある種の「ファウスト的取引」について書いています。同大学は、高等教育機関としては他に例を見ないほど、ここ数十年間で急成長を遂げました。サンフランシスコやカリフォルニア州全体のエリート層の裕福な子女が通う地方大学から、今では世界116カ国を凌ぐ年間予算を持つ、世界的



セオ・ベイカーの両親は、米国の著名なジャーナリストの夫婦。夫ピーター・ベイカーはニューヨーク・タイムズ紙のホワイトハウス担当チーフ特派員、妻スーザン・グラッサーはニューヨーク・マガジンの常駐ライターを務め、両名による政治分野の共著も多数出版されている

☞ Theo Baker, the son of...excited to be in Silicon Valley.

この文の基本構造は、〈S (Theo Baker) + V (enrolled) + 副詞句 (in Stanford University)〉である。コンマに囲まれた the son of...の部分は、主語 Theo Baker を説明する同格の挿入句。後ろに続く passionate... と excited... という2つの形容詞句は、文の主語である Theo Baker の「入学した時点での状態」を説明している。文法用語ではこれを「準補語」もしくは「疑似補語」と呼ぶ。

■ the George Polk Award (s)

米国のロングアイランド大学が主催する権威あるジャーナリズム賞。ギリシャ内戦の取材中に暗殺された記者ジョージ・ポルクをしのんで創設され、主に優れた調査報道に対して毎年贈られる。